



# 静岡 陸協 会報

第 6 号 (2009年 3月22日発行)

静岡陸上競技協会  
〒420-8508  
静岡市葵区鷹匠 1-14-31  
吉野寿ビル 2 F  
TEL・FAX 054-253-9801



**私と陸上大会**  
副会長 河合久光  
(静岡朝日テレビ社長)

今回、私と陸上大会との関わりについて、思い出と夢をまとめてみました。

まずは、二〇〇八年十一月で三十年の歴史の幕を閉じた「東京国際女子マラソン」です。この大会は、世界で初めて国際陸上競技連盟が公認する女性限定のマラソンとして一九七九年に第一回大会が開催され、私もテレビ朝日系列が生中継を実施いたしました。「女性がフルマラソンを走るなんてとんでもない」と当時の日本陸連の理事の大半は猛反対をいたしました。しかし、帖佐寛章氏らが押し切った開催にこぎつきました。最初の参加者は五〇名、優勝は四二才のイギリスのジョイス・スミス夫人でした。タイムは二時間三七分四八秒、結婚して二児の母としてマラソン初挑戦という快挙に加え、印象的だったのはレース中口元にハンカチをあててるしぐさでした。「女性のたし

なみとして、道路につばを吐きたくなかった」ゴール後のスミス夫人の言葉は多くの人に感動を与えました。彼女は続く第二回大会でも連覇を達成し、最後の大会ではスターターを務めてくれました。

初の国際女性マラソン大会が大成功だったことが契機となって五年後のロサンゼルス五輪で正式種目となりました。日本人の初優勝は第五回大会の佐々木七恵さん、二人目は一九九一年の谷川真理さんでした。谷川さんは当時のメインスポンサー「資生堂」の所属で、担当営業は大喜びしました。その後も浅利純子さんから山口衛里さんまで日本人選手が五連覇し、一九九〇年代は日本が世界をリードする形となりました。二〇〇五年からは高橋尚子さん、土佐礼子さん、野口みずきさんという実力者が優勝、最後は新鋭の尾崎好美さんが制して三〇年の歴史に幕を閉じました。それにしても、近年の五輪での日本人選手の活躍、そして市民大会でも女性ランナーの参加が年々増加していること、こうした隆盛を見ますと「東京国際女子マラソン」こそ

がその源と言えるでしょう。

もうひとつの思い出は「スーパー陸上」の静岡開催です。こちらもテレビ朝日系列が初のナイター陸上として始めたもので、国立競技場は毎年満員の盛況ぶりでした。しかし、一九九〇年は翌年の東京世界陸上の準備のため国立が使用できない事態となりました。当時、特別協賛スポンサー「TO・TO」の担当営業責任者として困惑している私の元へ朗報が届きました。静岡草薙競技場の改装こけら落としに招聘したいというのです。これはありがたい話だと飛びつきましたが、問題は照明設備がないことでした。そこは斉藤滋与史知事の大英断で突貫工事で照明塔がつけられ、九月十五日に無事開催、時のスーパースター、カール・ルイスの登場で会場は超満員でした。翌年五月にも草薙が舞台となりました。男子棒高跳びのブバカと、やり投げのラテウが世界記録を樹立し、スタンドは大歓声に包まれました。トラック競技の醍醐味を伝えてきたスーパー陸上ですが、近年は世界陸上・五輪に押され、低調なのは残念なことです。

そして、私も静岡朝日テレビが中心となつての「静岡駿府マラソン」は、おかげさまで参加者が一万人という静岡県内最大の市民マラソンに成長いたしました。関係者の熱意に感謝すると共に、トラック競技も含めて、「陸上王国静岡」の名にふさわしい底辺の拡大と人材を育成することが使命であり、世界で活躍する選手が静岡から数多く輩出されること

が私の夢でもあります。



## 平成二十年度静岡陸上 競技協会活動報告

理事長 亀山敏郎

この一年間の活動報告を申し上げます。対外的には、地域大会以上については、静岡国際陸上を五月三日に、東海選手権大会を八月に本県草薙競技場で、中日浜松カーニバルを十一月に開催致しました。各大会とも無事盛況裡に終了しました。県内大会では、競技会は、県選手権、静岡リレーカーニバル、各団体予選会、高校、中学、小学校、クラブ等、各大会を開催し無事終了しております。またマラソン、駅伝大会も、駿府・日本平・浜名湖・市町村対抗・富士山クロスカントリー大会、浜名湖一周駅伝等いずれも成功裡に終了しております。総会は年一回、理事会は三回、新たに常任理事、専門委員長会議を年五回開催し表彰委員会も開催し組織の連絡を密にしたと思っております。年間審判員の方で多い方は、三十五回以上の出席をされており一年をとおして、そのご苦勞は、大変なものであると考えます。各委員会所属の委員の

## 感謝の道(二十九年の歴史)

元日本陸連事務局勤務 砂原 晋

二〇〇六年(平成十八年)四月二日、福岡・海の中道で開催された「IAAF・世界クロカン福岡二〇〇六」が終了した夜、サヨナラ・パーティで、国際陸連のカンシルメンバーから、大会の成功を祝され、同時に「長い間の日本陸連での仕事ご苦労様」と労われました。というのもその年、三月三十一日は二十八年と五ヶ月勤めさせていただいた、私の日本陸連事務局定年退職日でした。

一九七七年(昭和五十二年)第一回、日中対抗陸上競技大会が中国、北京・南京・上海で開催された時に私の勤めていた会社が倒産をしました。当時勤める場所を探している時に、安田誠克副会長が青木半治日本陸連会長にお願いし、その年の十月から陸連事務局の国際担当として在籍することになりました。

当時の陸連事務局は、田中局長以下七名の局員でした。第一回日中対抗陸上開催時はまだ中国は国際陸連に加盟しておらず、国際陸連は早く加盟するよう呼びかけておりました。青木会長が中国と国際陸連との橋渡しをし実現しました。その時が私の国際関係の仕事の始まりでもありました。

一九七八年(昭和五十二年)九月、八カ国陸上の第一回大会が国立競技場で開催されました。海外から七チームのフルメンバーを招待し、近年にはない規模の大

会となりました。そのため大会運営関係者は大変な労苦を強いられました。特に選手村の西田修平村長は徹夜での叱責激励。私たちは監督会議のスタートルリスト作成に選手一人ひとりの種目をタイプライターで打ち込み、徹夜作業をしました。

一九七九年(昭和五十四年)五月、第三回アジア陸上競技大会が東京で開催されました。本来は選手権ですが、イスラエル国を招待したくない政治的配慮から「選手権」をタイトルから外すことでアジア陸連の了解を取り付け、陸連幹部の気を使うところでした。

この年の十一月には、東京国際女子マラソンが初めて開催された年でもありません。当時、国内の女子マラソン選手を育てるのと、外国選手を招くことという陸連の大きな使命もありました。帖佐 寛氏・高橋 進氏・浜松ヨシ江氏らの努力が無事開催することができました。

一九八〇年(昭和五十五年)、第二十九回別大毎日マラソン大会開催にあたり、初めて外国選手を招待したいと毎日新聞社・TBSから要請がありました。英国から二人の選手を招待し、その時コーチとして来日したのが、東京オリンピックマラソンのヒートリー氏でした。以降二〇〇四年の第五十四回大会まで外国選手招聘に携わりました。

一九八一年(昭和五十六年)、読売新聞社が東京男子マラソン主催の名乗りをあげ、続いてフジ・サンケイグループも手をあげた。両者の息詰まる駆け引きがあり、

当時の陸連幹部も頭を悩ませた。その結果二月が読売新聞社、三月がフジ・サンケイグループの主催で話がついた。翌年からは偶数年は読売新聞社、奇数年はフジ・サンケイグループとそれぞれの主催で大会は開催されるようになった。

一九八二年(昭和五十七年)、大阪で大阪女子マラソンが始まりました。最初の二回は日本陸連は絡んでおりませんでした。運営の方法が陸連の規則に触れているから改良しなければ陸連は主催にならないとさんざん議論をした結果、第三回から主催になりました。またこの前年には中日新聞社が、女子二十キロロードレースを開催し、第五回から名古屋女子マラソンに衣替えをしました。この大会で米国女子選手がアメリカ記録を樹立しましたが、米国陸連からコースが短いのではないかとクレームがきました。早速図面を送り証明を試みましたが最初は理解してもらえませんでした。最終的には日本の計測が正しいことが理解され、アメリカ記録となりました。

一九八三年(昭和五十八年)、三月に第一回横浜国際女子駅伝大会が開催されることになりました。世界五大陸から女子チームを招待するという基本原則により各国陸連に打診を重ね大会開催にこぎつけました。周囲から特別な指導や強化委員会等の協力もなく、自分ひとりの判断で招待国を決めてしまった思い出は、今でも鮮明に記憶に残っています。

現在国際陸連が開催している、世界ハ

ーフマラソンの原形であるワールドカップマラソン広島大会が一九八五年(昭和六十一年)広島で開催されました。この時は大会の最終記録がなかなかでず、朝一番で帰る選手団にやっと間に合うというお粗末さで徹夜を強いられました。九月には、日・米・ソ対抗陸上大会が東京で開催され、世界トップアスリートが来日するという大きな反響を呼びました。当時はソ連査証が簡単に取得できず何度も外務省に足を運んだものです。

一九八六年(昭和六十一年)、再び広島で第一回ワールドチャレンジ・ロードリレーが開催されました。この大会は後の国際千葉駅伝と国際陸連のワールドリレーへと発展していきました。また、日刊ナイター陸上が、第一回スーパー陸上として誕生した。より高い世界レベルの選手の参加があり陸上界が盛り上がりました。この大会に出場した選手が、一九八四年(昭和五十九年)から始まった静岡国際陸上にも参加するようになり、今日の大会となつていきます。特にブブカ選手の棒高跳び世界新や、ゼレズニー選手のやり投げなどは記憶に強く残っています。

一九九一年(平成三年)、八月に第三回世界陸上東京大会が行われ、私はアクレディテーション担当として新高輪プリンスホテル内で選手・役員のIDカード作成に携わりました。この時多くの選手・役員をいかに早くIDカードを取得させ効率的に流す方法を考えました。一番よい方法はスーパーマーケットの会計の仕方ではないかと思ひ採用し、い

くつものゲートを作り、並んでもらいました。結果的には米国の大選手団でも三十分以内に取得でき、次回開催のドイツ陸連もこの方法を参考にしました。

思い出は飛びますが、二〇〇四年に陸連事務局より、二〇〇六年のIAAF世界クロスカントリー選手権福岡大会の事務局長を任命され、事務局員は女性三名と陸連財務委員会から経理担当の男性一名、事務総長に帖佐副会長、以上のスタッフでした。当時、福岡陸協は福岡クロカンの準備で多忙ということで我々の会議のみに出席した程度でした。予算も満足なスポンサーを得ることができず帖佐事務総長が奔走しました。裏から見れば大変お粗末な世界選手権でもありました。

以上私が日本陸連事務局で二十九年間近くお世話になり仕事ができただけは、私の人生の宝物として何時までも記憶に残っています。一緒に汗を流した良き友人らに感謝しています。私が日本陸連でお世話になった田中 順事務局長からは「人と人との信用が大事な仕事」と言われたことは今でもはっきり覚えています。故ネビオロ会長や現デアク会長から「マイフレンド」と、こやかに握手を求められたことは、幸せを感じ良き思い出となつて心に残ります。



## 支部 便り

### 東部支部報告

東部支部理事長 勝又瑛逸

東部支部の平成二十年度のスケジュールは、僅かの駅伝を残し十二月十四日の総会をもって終了しました。関係各位に深くお礼を申し上げます。

さて、この一年を振り返ってみると、四月の東部選手権で棒高跳の鈴木崇文君(富士宮北・東海大)が、5m55の好記録を出したことから始まり、特に東部地区の高校出身の学生・社会人が、各地区IC、全日本IC、日本選手権、団体と活躍の目立った年でもありました。

六月の日本選手権には、棒高跳の鈴木崇文君が、5m50で二位となり、走幅跳では、堀池靖幸君(沼東・早大)が、七位入賞を果たした。

九月に開催された日本学生対抗選手権では、堀池靖幸君(前出)が走幅跳で優勝、走高跳で、小野田学登君(修工、順大)が二位、岩田康弘君(沼東・東京学芸大)が五位、女子では、一万mで西尾愛美さん(沼西・中央大)が五位、砲丸投に野毛伸子さん(三島北・大体大)が六位入賞と活躍が目立ちました。

十月の国体では、成年男子走幅跳で志鎌幸司君(沼東・筑波大・阿見アスリート茨城)が二位、少年B女子百mに奥野由布子さん(葦山高)が五位に入賞した。また学生だけでなく中学生も、全日中で、勝亦祐太君(御殿場富士岡中)が、千五百m・三千mの二種目に優勝し、特

に三千mは、8分27秒57の大会新記録での優勝であった。このように全国規模の大会で、活躍する選手はまだ沢山いるが、このように多くなったことは、彼らの努力は当然の事ですが、基礎を教えた指導者などの努力が結実したものであり、また、強い東部を目指して行っている「競技力向上のための支援事業」の効果がよくよく表れ始めたものと喜んでいきます。東部支部は、ここで望月紘一新任理事の体制に交代します。新任理事は静岡国体時の県の強化委員長を経験したベテランであり、この支援事業を継続して頂き目標である『強い東部』を実現して頂きたいと願ひ筆を置きます。

### 中部陸協二十年度を振り返って

中部支部理事長 大塩正則

会員の皆様方には、日ごろ、中部陸協の諸事業にご協力とご支援を賜り感謝し、御礼を申し上げます。昨年は、オリンピックが北京で開催されました。三大会連続の金メダルが期待された、女子マラソンにおいては、途中棄権や欠場という非常に残念な結果となりました。中部地区の陸上をふりかえって見ますと素晴らしい活躍がありました。埼玉で行なわれたインターハイでは、男子四×百MRで藤枝明誠高(加藤・飯塚・梗田・天野)が第三位、女子円盤投でも、藤枝明誠高の鈴木和佳絵さんが第四位、男子走幅跳で静岡市立高の清水楽君が第八位に入賞しました。新潟で行なわれた全日本中学校大会上では、男子走幅跳で静岡東中の松原奨君が第二位、女子八百Mでは、籠

上中の木村友香さんが第二位、木村さんは千五百Mでも第五位に入賞しました。男子四百Mでは、由比中の望月龍之介君が第五位に入賞しました。また、十月十九日に行なわれた県小学生大会で、清水ミズノSCの松本奈菜子さんが、八百Mで2分19秒29の県小学生新記録で優勝しました。十月二十五日のジュニアオリンピック大会では、籠上中の木村さんが、4分24秒73の好タイムで走り、東海中学新、県中学新記録で優勝しました。全国大会等で活躍された選手、指導者の皆様に敬意を表すとともに、ご支援いただいた関係者に心から感謝申し上げます。また、本年は由比町と富士川町が、合併しましたので二十一年度からは、中部陸協は、五支部で活動することになります。三月には駿府マラソン、四月には日本平桜マラソン、焼津港マラソン等が開催されます。新しい年が、更なる飛躍になるよう会員の皆様とともに中部陸上競技協会も、大いに前進したいと存じます。

### 二〇〇八年の西部陸上

西部支部理事長 和田隆保

二〇〇八年はオリンピックキヤーであったが西部陸上は元気がなかった。昨年の大活躍に比べ小・中・高・一般とも全国大会、国体において目立った活躍がでなかった。小学生から一般まで連携した活動により継続した強さを持ちたい。年三回行っている西部月例競技会は盛況で、特に中学生の参加が目立つ。忙しい校務の合間を縫って毎日熱心に指導にあたる中学生指導者の皆様には頭がさがり



## 各委員会便り

### 競技委員会

ます。また、春秋開催の西部小学生陸上も定着してきており、大いに普及に役立っている。支部が発掘、育成し、県が強化していくという流れも一つの方法、関係者の一層の尽力をお願いしたい。「良い事の後は落とし穴が……」そんな思いのする年であったが二〇〇九年の活躍を目指して冬の鍛錬に入って欲しい。師走に入っている市町村対抗伝で浜松市西部が優勝したことは少し溜飲を下げた思いがした。本年も数多くの競技会を開催しましたが準備、運営にあたられた委員の皆様にご心よりお礼申し上げます。

平成二十年度は東海選手権大会をはじめ、東海中学総体陸上競技大会、東海高専大会の主管事業を成功裡に導きました。また第二十四回静岡国際陸上競技大会を『NEWわかふじ国体』以来、全国レベルの大会として小笠山運動公園エコパスタジアムにて実施し、日本新記録および北京オリンピック参加A・B標準記録が誕生するなどシーズン通して大きな成果を残して終了することができました。これから大会運営に携わっていただきましたことに厚く感謝とお礼を申し上げます。

さて、平成二十一年度は第二十五回静岡国際陸上競技大会を昨年同様に小笠山運動公園エコパスタジアムにて実施することをはじめ、県陸協および支部陸協あわせて百十大会の暦年事業を計画致しま

した。これら大会が『強い静岡』につなげていけるよう格段のご協力をお願い致します。以下主要大会です。

- 四月五日(日)日本平桜マラソン(草薨)、四月二十六日(日)第三十八回静岡リレーカーニバル(草薨)、五月三日(日)第二十五回静岡国際陸上(エコパ)、五月十六日(土)長距離記録会(エコパ)、五月二十九日(金)三十日(土)三十一日(日)静岡県高校総体陸上(エコパ)、六月十四日(日)、六月二十七日(土)国体成年・少年予選会、第二十五回小学生交流大会(草薨)、六月二十七日(土)長距離記録会(エコパ)、七月四日(土)第二十四回中学選抜陸上(草薨)、七月十一日(土)第六十四回県陸上競技選手権(草薨)、七月二十日(月・祝)国体成年・少年予選会(浜松)、八月二日(日)県ジュニアクラブ選手権(草薨)、八月二十三日(日)富士山クロスカントリー(こどもの国)、八月二十九日(土)第二十九回県ジュニアオリンピック(草薨)、九月六日(日)県長距離記録会(エコパ)、九月十六日(土)二十七日(日)県高校新人陸上(草薨)、十月十日(土)県中学新人陸上(草薨)、十月十七日(土)県長距離記録会(エコパ)、十月十八日(日)第三十八回県小学生陸上選手権(草薨)、十一月三日(火・祝)浜松中日カーニバル(浜松)、十一月七日(土)県高校男女駅伝(エコパ)、十一月十四日(土)県中学駅伝(エコパ)、十一月二十八日(土)県長距離記録会(エコパ)、十二月五日(土)第十回県市町村駅伝(静岡)、二月二十一日(日)浜松シティマラソン(浜松)、三月七日(日)第三十五回静岡駿府マラソン(静岡)

(競技委員長 加藤 崧)

## 記録委員会

(記録委員長 赤堀順一)

平成20年に樹立された記録一覧表

### 【一般の部】

・東海新記録	(女子)	10000m	31'31"45	松岡 範子	スズキ	6,1	新潟選抜競技会	新潟
・県新記録	(女子)	10000m	31'31"45	松岡 範子	スズキ	6,1	新潟選抜競技会	新潟
		やり投	56m71	海老原有希	スズキ	6,26	日本選手権	等々力
		5000m	15'32"79	松岡 範子	スズキ	6,29	日本選手権	等々力
		棒高跳	3 m82	尾上 裕香	日本体育大	7,12	県選手権	草薨

### 【高校の部】

・東海高校新記録	(女子)	棒高跳(高校最高)	3 m81	尾上 裕香	磐田農高	3,16	静大春季サーキット記録会	草薨
		1500m	4'22"08	中村真悠子	磐田北高	7,29	全国高校総体	熊谷
・高校県新記録	(男子)	円盤投(1.75kg)	44m48	バグディセドグラス	新居高	8,2	全国高校総体	熊谷
		砲丸投(6.0kg)	16m57	鈴木 郷史	藤枝明誠高	10,26	東海高校新人	伊勢
	(女子)	棒高跳(高校最高)	3 m81	尾上 裕香	磐田農高	3,16	静大春季サーキット記録会	草薨
		1500m	4'22"08	中村真悠子	磐田北高	7,29	全国高校総体	熊谷

### 【中学の部】

・中学日本記録	(女子)	棒高跳(中学最高)	3 m71	小田嶋怜美	浜松天竜中	3,31	北和記録会	鴻ノ池
・中学東海新記録	(男子)	四種競技	2711点	馬淵 和哉	浜松曳馬中	8,20	全日本中学	新潟
		4×100mR(混合)	42"92	日吉・久松渡邊・石川	静岡選抜	10,26	ジュニアオリンピック	横浜日産
・中学県新記録	(女子)	棒高跳(中学最高)	3 m71	小田嶋怜美	浜松天竜中	3,31	北和記録会	鴻ノ池
		1500m	4'24"73	木村 友香	静岡籠上中	10,25	ジュニアオリンピック	横浜日産
	(男子)	四種競技	2711点	馬淵 和哉	浜松曳馬中	8,20	全日本中学	新潟
		110mH	14"32	滝田 慎一	富士田子浦中	8,21	全日本中学	新潟
(女子)	4×100mR(混合)	42"92	日吉・久松渡邊・石川	静岡選抜	10,26	ジュニアオリンピック	横浜日産	
	棒高跳(中学最高)	3 m71	小田嶋怜美	浜松天竜中	3,31	北和記録会	鴻ノ池	
1500m	4'24"73	木村 友香	静岡籠上中	10,25	ジュニアオリンピック	横浜日産		

### 【小学の部】

・小学県新記録	(男子)	800m	2'19"99	加藤 雅仁	沼津金岡陸上	6,28	沼津市選手権	沼津
	(女子)	800m	2'19"29	松本奈菜子	清水ミズノSC	10,19	県小学生選手権	草薨

### 【外国人の部】

・県外国人新記録	(男子)	10000m	27'08"25	M. マサシ	スズキ	8,17	北京五輪	北京
	(女子)	5000m	14'33"49	L. ワゴイ	スズキ	6,6	ビスレットゲームズ	オスロ

### 強化委員会

◎第六十三回国民体育大会(大分) 結果

天皇杯 十七位 五六・五点

皇后杯 十五位 三一・五点

(入賞者)

成年男子

走巾跳 志鎌秀昭(阿見アスリート)二位

ハンマー投 馬淵将臣(東海大) 四位

少年男子A

百M 平松巧至(磐田南) 八位

少年男子B

走巾跳 松原 奨(静岡東中) 四位

少年男子共通

走高跳 佐藤翔平(浜松商) 七位

棒高跳 鈴木惇也(浜松市立) 四位

成年女子

走高跳 高村知里(静岡大) 七位

走巾跳 池田久美子(スズキ) 優勝

女子共通

四百MR 奥野・中村・長倉・渡辺七位

少年女子A

八百M 中村真悠子(磐田北) 七位

ハンマー投 竹山知佳(浜松湖南) 八位

少年女子B

百M 奥野由布子(葦山) 五位

少年女子共通

棒高跳 青島綾子(磐田農) 五位

本年度は大会前から故障者が多く、本大会に入ってから思うような結果が出ず非常に苦しい大会であった。成績も昨年を大きく下まわる結果に終わり反省の多い大会であった。今後・大学生・高校生を中心に強化し、強い静岡の復活を期待したい。色々と御協力・応援ありがとうございました。

うございました。

(強化委員長 新聞一夫)

### 普及委員会

◇第二十四回全国小学生陸上競技大会

結果

○五年百M第二位、天城帆乃香(浜松河輪AC) ○六年百M第八位、杉山梓(沼津陸上少年団) ○五・六年八十mH第五位、福井美月(清水ミズノSC) ○五・六年走幅跳第三位、水島恵(清水ミズノSC)

天城帆乃香さん、水島恵さんが県陸協の優秀選手賞を受賞しました。

◇県陸協陸上指導者講習会の報告

講師・スポーツ科学委員長 高田均氏

(内容)陸上競技のスポーツ障害について

筋肉のアンバランスからくる体の歪み。そのチェックのし方と矯正のし方。

(午前・指導 午後・参加者の実技)

◎受講者のアンケートから(抜粋)

・身体バランスの整え方、簡単であるのに効果が高いことがよくわかりました。

・体のバランスの大切さを痛感しました。それと同時に、こんなにも簡単に解消するのかと驚きました。

・始めて知る技術ばかりで勉強になりました。

・小学生の身体機能が低下しているため、成長痛(踵等)が多く、思うように練習ができない状態です。資料を参考にして適切な処置を心掛けたいと思います。

・指導法の講習も良いが、今回の内容は特に勉強になりました。など、大変好

評を得ての講習となり、次回の講習の要望が多くありました。

(普及委員長 石野吟策)

### 情報システム委員会

正確な記録の速い処理に向けて

陸上競技の競技者や監督、観客に対して、正確な記録を一秒でも速く発表することは最高のサービスである。そこで小さな競技場の小さな競技会でも使いやすく安価なシステムの開発を行った。全国大会のような大規模競技会では予算も人手も豊富であるが、そのような競技会の開催頻度は非常に少ない。それに対し、多くの頻度で開催される競技場の小さな競技会では予算も限られており、人手も少ない。このような条件で使えるようなソフトウェアを目指した。パソコンは数台、プリンタは一台から二台あれば可能のようにした。また使いやすく、事前や当日の手間をできるだけ減らした。

写真判定装置がある場合には、これと接続して判定テープをそのまま取込む事もでき、接続しないで手で入力する場合も手間を減らすような工夫がされている。アナウンサーのところにパソコンを設置すれば競技結果が確定後すぐ発表することが出来る。トラック記録が入力されれば簡単に番組編成が作成でき、準決勝や決勝のスタートリスト案が出来上がる。競技会が終了後は、簡単に競技結果一覧表が作成でき、またインターネット掲載用のファイルができるようになってくる。これまで記録員は競技会終了後、長時間の作業を強いられていたものが短

時間で済むようになった。

今後はできるだけ多くの人がこの使い方に慣れるようにしたい。

(情報システム委員長 永田勝久)

### 広報委員会

三月下旬、県内各報道機関(新聞社・放送局)への要覧・大会日程等の送付。

県内主要大会のメディア取材状況調査、四月の静岡リレーカーニバルから始まり十一月の浜松中日カーニバルまで計十三大会の報道陣取材、平成二十年度は延数で二百七十一人、四、五年前の百二、三十人と比較すると倍近く増えている。

また年四回陸連時報(陸上マガジン)に県陸協ニュースとして話題提供(五月号)桜マラソン・静岡リレーカーニバル情報・八月号日本グランプリ第四戦、第二十四回静岡国際陸上結果情報・十一月号県市町村駅伝(実行委員会)情報・二月号県内ロードレース大会情報。

陸協会報(年二回発行三月・九月)は今回で第六号となります。陸協役員・審判員の皆様のご協力に感謝します。その他、多方面からの情報もお寄せ下さい。

(広報委員長 橋本美智夫)

### スポーツ科学委員会

科学的なトレーニングを求めて

十一月の中旬から約二週間、アメリカのテネシーとロサンゼルスに行ってきました。目的は大学のトレーニングと、ジュニアスポーツクラブの研修でした。大学では投擲の練習が見学できましたがス

ポーツドクター、トレーナー、コーチスタッフの強い絆と相変わらず充実した設備がありました。ジュニアスポーツクラブでは小学生、中学生アメリカンフットボールのトーナメントの試合とバスケットの練習が見学できました。アメリカのスポーツはシーズン制でジュニアでは一つの競技が三〜四ヶ月で年間最大三〜四競技ができるようになっていきます。このシステムの趣旨は障害から護ることや多くの競技をすることにより多くの筋肉や神経系などの発達を促すことや特性能力を見出すことなどが上げられていました。

本来スポーツの好きな国民ですが子供のときから大選手になることについても夢を抱いているようでした。それにしても日本では考えられない内容がいくつもありました。私達はアメリカと同じようにはできませんが少しでも子供達が将来の夢と目標が達成できるように支援することが大切と考えます。課題は多々あると思います。先ずできることは指導するそれぞれの分野の関係者が連携を取りながら進める事が求められていると思います。その中で現場の指導者は少しでもスポーツ科学の知識を会得し、子供達のスポーツのスキルやモチベーションを高め、障害の発生をできるだけ止めよう努力することを惜しまなければ子供達の将来の夢が叶うのではないのでしょうか。

(スポーツ科学委員長 高田 均)

### 医科学委員会(大分国体分析)

ジュニア選手の実力発揮について

平成二十年度、ジュニア、主に高校生

選手を対象に練習時、大会時、自分の実力を十二分発揮し、記録を向上させるためにはどのようなようにしたら良いかをテーマに、びわこ成蹊スポーツ大学教授、豊田則成氏に講義・実技をお願いした。

○集中力をつけるための心理的なアプローチ

常に自分と練習内容・目標とする大会を関連づけ、大会で求めるものは技術か戦略か、それともモチベーション(高め)なのか明確にし、理解することが大切であると言う。これまで心理的技法は多く開発されているが、今回は基本的な技法を二つ紹介された。

一、呼吸法、気分を切り替えたい時は呼吸の仕方に注意を向け、吐く息に意識を向け、呼吸以外の事には注意を留めず、雑念が出てもしスッと流して消えて行くようにする。

二、格子法といって、縦横十個の升目の中に乱数のある一定時間内に何個数え上げられるかという方法。

これらを毎日の練習時や日常生活の中で取り入れていくことが大切だと言う。

大会で自己記録の九十八%以上の記録を出していれば、ほぼ実力は出している。今回の大分国体での高校生・大学生の結果は、十七名中十一名、六十五%の選手が実力発揮した。大会二週間前のメンタルコンディション調査(POMS)ではほぼ全員が最後の合同練習期間中だったので緊張、抑うつ、疲労、情緒混乱項目の得点が高い傾向を示した。結果を強化委員会の先生方に報告し、その後の調

整期間中の練習の仕方、モチベーションの高め方について話し合いを行ないました。お陰で強化委員会の先生方の指導支援が大きく功を奏し右記の結果になったと思われます。なかでも実力を百%発揮した選手は三名おり上位入賞を果たした。実力を九十八%で良いと思えば、気持ちが悪くなります。しかし残り三十五%の高校生は県代表に選ばれ少しでも上位入賞をと思ふ気持ちに逆にプレッシャーとなつて、普通なら絶対おかしなミスをしてしまう事になったのではないのでしょうか。集中力アップと実力発揮について、今後も更に研究を重ね協力体制で望み、実践していきたいと思ひます。

(医科学委員長 伊藤 宏)

### 高体連(全日制)

#### 今年度を振り返って

静岡陸協の皆様方のご協力、ご支援により本年度の大会を無事終了できたことを心より御礼申し上げます。

高校総体では、東海を勝ち残り全国に進んだ本県選手は延べ人数で、男子三十人、リレー四チーム、女子は三十人、リレー三チーム、男子は例年通りでしたが、女子は昨年より五人減りました。そして、全国大会の八位入賞者は、男子六人二チーム、女子八人で、優勝者は〇でした。都道府県対抗では、男十五位女六位という結果になり、昨年の男三位女七位から見ると男子の落ち込みが大きく、奮起が望まれる状況になっています。

新人戦の県大会では、男女とも特に短距離で好記録が出され、新年度への期待

が膨らんできました。そして、三重県で行われた東海新人大会の結果を入賞率で見ると、男子は愛知が三十五%、次いで静岡二十九%、女子は愛知が三十八%、次いで静岡三十四%と愛知に次いで二番目でした。この冬にしっかりと鍛え、来シーズンに大いに羽ばたいてもらいたいと願っています。

高校駅伝では、会場を浜岡の地からエコーパに移し、大会が開催されました。エコーコースが初めてということで、多くの反省点が上がります。来年度はより良い形で開催したいと思っております。その大会の結果としては、男子藤枝明誠(二年ぶり八回目)、女子三島北(二年ぶり三回目)が全国大会の切符を得ることに、全国での活躍が期待されましたが、都大路では残念ながら男子三十四位、女子四十二位という結果でした。

来年度は、様々な面で、よりよい結果が残せるように努力して参りますので、陸協の皆様のご協力をお願い致します。

(高体連全日制委員長 綾部信明)

### 高体連(定通制)

本年度定通制では八月十六日〜十八日に国立競技場で開催された全国大会に四十名を送り出しました。今年の大会では男子の活躍が目立ち、走幅跳で壬生君(静岡中央)が見事に優勝したほか、四×四百mR(県選抜)では神奈川との大接戦の末に準優勝し、四百mHでは池谷君(静岡中央)が三位になるなど十種目の入賞を数え、総合とフィールドの部で三位となりました。女子では四種目で入賞し、走高跳で伊藤さん(浜松北)と



百mHで鈴木さん(磐田南)が三位となりました。伊藤さんは四年連続でのメダル獲得という素晴らしい成績を残してくれました。

この結果、男女総合では五位となり、ここ数年では最高の成績を収めることができました。

県大会の参加状況では、全国大会の予選を兼ねる春季大会は例年並みの参加者数だったものの、秋季大会では学校数、選手数ともに減少し、特に女子では選手数が半減しました。学校の再編に伴い、今後さらさら減少することが予想されます。各校とも練習場所や練習時間の確保等で苦労されていると思いますが、次年度も盛り上げていけるようお願いしたいと思います。

最後に、大会運営や審判等をお願いし、多大な協力を頂いている東部陸協・中部高体連他、関係各位にはこの場を借りて御礼申し上げます。

(高体連定通制委員長 浜田俊則)

### 中体連陸上競技部

## 大会を振り返って

第三十五回全日本中学校陸上競技選手権大会は『ふりそそげ!きらめく笑顔 北信越大空に!』の大会スローガンのもと、八月十九日から三日間、新潟県東北電力ビッグスワンスタジアムにおいて開催されました。本会参加選手人数一六八三名の内、本県からは百二名(男女各五十一名)が参加しました。これは兵庫県の百十七名に続き二番目の多さでした。大会期間中は、初日に大荒れの天候で棒

高跳が翌日に延期になるなど大変な面はありましたが、選手と監督の見事なコンディションングと大会関係者の協力ですムーズに三日間の競技を行うことができました。本県の結果は、男子千五百メートルと三千メートルの二種目で勝亦祐太君(富士岡)が大会新記録(三千メートル)で優勝し、閉会式で優秀競技者賞文部科学大臣賞を賞しました。他にも走幅跳で松原奨君(静岡東)が二位、走高跳で平龍彦君(富塚)が三位、小池輝君(江西)が四位、四百メートルで望月龍之介君(由比)が四位、百メートルで滝田慎一君(田子浦)が四位、棒高跳で笹瀬由樹君(新居)が六位、四種競技で馬淵和哉君(曳馬)が六位、女子では、木村友香さん(籠上)が八百メートルで二位、千五百メートルで五位、砲丸投で浜松天竜の鈴木彩乃さんが四位、佐藤真緒さんが七位に入賞しました。どの選手も全力を出し切ってがんばりました。

神奈川県日産スタジアムで開催された第三十九回ジュニアオリンピックでは、男子Aクラス(中三)三千メートルで全中に引き続き勝亦祐太君(御殿場富士岡)が優勝、走高跳で平龍彦君(富塚)が五位、小池輝君(江西)が七位、三千メートルで大原健斗君(服織)が八位、Bクラス(中二)千五百メートルで丹野風重君(天竜)が四位、百メートルで久松巧君(吉原二)が六位、走幅跳で村上了太君(岳陽)が七位、Cクラス(中一)百メートルで日吉克実君(修善寺)が見事優勝、砲丸投で野中有布作君(曳馬)が六位、男子選抜リレー(日吉君、久松君、渡邊君、石川君)が三位、女子Bクラス

千五百メートルで木村友香さん(籠上)が見事優勝、百メートルで高山真里奈さん(清水ミズノSC)が七位、百メートルで萩田梨菜さん(浜松北浜)が六位、走高跳で堤桃花さん(鷹岡)が三位、砲丸投で佐藤真緒さん(天竜)が見事優勝、Cクラス百メートルで建部カオリさん(浜松陸上)が三位、百メートルHで二村有紀さん(天竜)が二位、女子選抜リレー(鈴木さん、高山さん、高田さん、建部さん)が六位に入賞しました。入賞者が大勢出てよかったと思います。

十二月二十一日には山口県セミナーパークにて第十六回全国中学駅伝競走大会が開催されました。御殿場富士岡中学校女子チームが見事八位に入賞しました。男子チームは惜しくも入賞を逃しましたが、個人ではエースの勝亦君が区間賞を取る素晴らしい結果を残してくれました。例年静岡県の選手が大変良い結果を出すことができるのは、選手の頑張りはもちろん、先生方の情熱溢れる指導の成果だと思えます。また、全国大会選手団スタッフや強化合宿に協力してくださる優秀な指導者の方々の支えも忘れてはならないと思います。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(中体連部長 高山 登)

## 全日本実業団対抗陸上大会

### スズキ準優勝

九月下旬山形・天童市で開催され、本県スズキ勢が男女総合で準優勝した。男子やり投げの村上選手七連覇を初め、男子千五百メートルマーティン・マサシ選

手、ジュニア千五百メートル拓殖大地選手、女子百メートル障害・走幅跳びの池田久美子選手、女子やり投げの海老原有希選手らが優勝し原動力となった。対抗得点は富士通が百四点で男女総合優勝し、スズキが八十七点で第二位、ナチュリルが八十一点で第三位、以上の結果であった。

## チャレンジ、おおいた国体会長激励

第六十三回大分市九州石油ドームで開会式を行い、選手・役員ら百二十人が入場行進に参加した。今回、本県は全競技で六百四十人の選手団を送り込んだ。開会式開始前に斉藤志二団長は選手団に郷土の代表として、「荣誉と誇りを持って臨んで欲しい」と激励した。

## 国公立二十三大学対校陸上大会

### 静岡で開催

今回で二十三回を数え地元静岡大学が当番校となり、県陸上競技協会が運営協力をした。参加大学は、茨城・宇都宮・群馬・埼玉・静岡・首都・信州・高崎経済・千葉・都留文科・電気通信・東京外語・東京学芸・東京工業・東北・新潟・一橋・福島・三重・山形・山梨・横浜国立・横浜国立の以上二十三大学である。

## 県障害者スポーツ陸上競技大会

第九回、県障害者スポーツ大会が九月二十一日草薙陸上競技場で開かれた。石

川知事も出席し選手らを激励した。またそれに答えるように八百メートル出場の井口貴且（浜松市）選手・千五百メートル出場の駒井智衣（伊豆の国市）両選手が力強く宣誓した。大会は石川知事のスタート合図で車いす五千メートルから開始した。会場には選手・スタッフ・関係役員等約千人が参加した。



### 東海高校新人大会

第十一回東海高校新人陸上競技大会が三重・伊勢市の県営総合陸上競技場で十月二十五～二十六日開催された。両日で男女三十六種目の決勝が行われ、本県勢初日は、男子四百メートルで藤枝明誠の法月秀平選手・同棒高跳び浜松市立の影山湧亮選手・女子砲丸投げ日大三島の伊藤有可選手らが優勝した。二日目最終日は男子砲丸投げ藤枝明誠の鈴木史選手が16メートル57の大会新・県高校新をマーク、同じく男子千六百メートルリレーも藤枝明誠が制し、女子は浜松市立が二連覇した。また四百メートル障害では男子が吉原商業の東海林拓也選手、女子は伊

豆中央の会沢理奈選手がそれぞれ優勝。女子二百メートルでは東海大翔洋の鈴木咲子選手が優勝した。

### 県高校新人陸上大会

一日目男女十九種目・二日目男女十七種目の決勝を行った。今大会ハイライトは男子百メートルで常葉橘の羽根達也選手が大会新（10秒55）・男子砲丸で藤枝明誠の鈴木郷史選手が連覇（15メートル13）、女子四百メートル障害の沼津西、佐野有理選手大会新でそれぞれ優勝した。また学校対抗では男子総合一位藤枝明誠・第二位浜松市立・第三位東海大翔洋、女子総合一位浜松市立・第二位常葉菊川・第三位沼津西、以上の結果であった。



### 県中学新人陸上大会

十月十一日県中学新人陸上開催。特に注目されたのが、笠上中（静岡市）の木村友香選手である。女子千五百メートルで抜群の強さを発揮し、大会新で優勝し

た。記録は4分29秒77。同選手は全国大会八百メートル二位の実績をもちスピードには定評があり序盤から飛び出し積極的なレース展開で望んだ。この日男女二十六種目の決勝を行い、男子共通棒高跳び天竜中（浜松市）の小林亮太選手も大会新で優勝。記録は4メートル31。その他七種目十一個の大会新が誕生した。



### 第三十七回県小学生陸上競技選手権大会

県下の小学生選手約千人が参加しての熱戦、スタンドからは保護者の大きな声援が響きわたった。女子五・六年八百メートルは松本奈菜子（清水ミズノS.C）選手が県小学生新（2分19秒29）、同百メートルは天城帆乃香（浜松河輪A.C）選手が13秒12でそれぞれ優勝した。また同走り幅跳びでは水島恵（清水ミズノS.C）選手が4メートル69、男子では五・六年八十メートル障害の加藤（浜松河輪A.C）選手が12秒74、同千五百メートルでは沢弘平（藤枝A.C）選手が4分39秒

37で第一位となった。その他当日は昨年全国大会で活躍した選手表彰も行った。優秀選手賞は全国第二位の浜松河輪A.C天城帆乃香（女子五年百メートル13秒19）さん・全国第三位の水島恵（清水ミズノS.C女子五・六年走り幅跳び4メートル77）さんの二人が受賞した。



### 第二十七回浜松中日カーニバル招待陸上競技大会

十一月三日浜松市・四ツ池公園陸上競技場で開催された。招待種目・一般種目を含め四十二種目実施。招待選手では、男子棒高跳びで笹瀬弘樹（早稲田・浜松市立出身）選手が5メートル40の大会タイ記録で優勝、同走り幅跳びでは志鎌秀昭（阿美A.C・沼津東出身）選手が7メートル93、女子やり投げでは海老原有希（スズキ）選手が55メートル50でそれぞれ優勝した。今回、大会最優秀選手には志鎌選手が選ばれ、今シーズン最後の大会として幕を閉じた。



### 県高校駅伝大会

男子第五十九回・女子二十一回大会が、今回から会場を袋井市・エコパスタジアム周回コースに移し開催。男子優勝は二年ぶり八度目の藤枝明誠高校チーム（2時間13分35秒）、女子は三島北高校チーム（1時間14分27秒）二年ぶり三度目の優勝。（十一月二日）

### 国際マラソン選手を本県からも

静岡新聞（昨年十一月三日付夕刊）に、「中部五県から五輪マラソンランナーを」という記事が掲載された。中部実業団連盟が所属チームの枠を超え、男子マラソン強化の共同プロジェクトをつくり推進しているという内容です。これにはスズキ陸上部総監督の筒井昭氏が中心となり、加盟チームの指導者・選手が総力を挙げ、ロンドン五輪に選手を送ろうということとです。現在、今年ベルリンで開催される世界選手権大会に日本代表選手を出すことを目標としている。すでに成果がでてきているようです。

### 県市町村対抗駅伝

第九回県市町村駅伝競走大会が十二月六日静岡市で開催された。結果は市の部、浜松西部チーム初栄冠・町の部、長泉町チーム三年ぶり四度目の優勝に輝いた。また本年十二月に開催の第十回は記念大会として更に盛り上がることを関係者は期待を寄せている。

#### 市の部

① 浜松市西部	2時間17分04秒
② 御殿場市	2時間18分01秒
③ 静岡市静岡A	2時間18分04秒
④ 富士市	2時間19分10秒
⑤ 藤枝市	2時間19分22秒
⑥ 浜松市北部	2時間20分07秒
⑦ 浜松市中央	2時間20分20秒
⑧ 高田市	2時間21分31秒
⑨ 磐田市	2時間21分42秒
⑩ 富士宮市	2時間22分32秒

#### 町の部

① 長泉町	2時間21分21秒
② 新居町	2時間22分56秒
③ 函南町	2時間25分54秒
④ 森町	2時間27分41秒
⑤ 小山町	2時間27分54秒
⑥ 清水町	2時間29分18秒
⑦ 吉田町	2時間31分35秒
⑧ 南伊豆町	2時間32分07秒

### 全国道府県対抗駅伝 （男子大会（一月十八日））

第十四回大会が広島市で開催された。本県チームはリズムに乗りきれずの展開ではあったが中学生選手の勝亦（富士岡中）君が二区・区間新で大活躍した。

#### ◇本県の過去五年間の成績◇

2004年	21位	2時間24分02秒
2005年	22位	2時間23分30秒
2006年	15位	2時間24分08秒
2007年	27位	2時間24分33秒
2008年	26位	2時間25分07秒

#### ◇本県選手の区間記録◇

▽一区（7キロ）	石間 涼（浜松日体高）	20分52秒	33
▽二区（3キロ）	勝亦祐太（御殿場富士岡中）	8分30秒	1
▽三区（8・5キロ）	山下伸一（滝ヶ原自衛隊）	25分15秒	39
▽四区（5キロ）	鈴木 駿（藤枝明誠高）	15分13秒	37
▽五区（8・5キロ）	島田直輝（浜松日体高）	26分02秒	29
▽六区（3キロ）	大原健斗（静岡服織中）	9分02秒	6
▽七区（13キロ）	白柳智也（トヨタ紡績）	39分05秒	25

### （女子大会（一月十一日））

第二十七回大会が京都市で開催された。本県チームは粘りのレース展開をした。各選手健闘し、なかでも中学生（静岡籠上中二年、木村・御殿場富士岡中二年、田中）の二選手が光り、今後の明るい材料を提供した。

#### 【本県の過去五年間の成績】

2004年	22位	2時間21分50秒
-------	-----	-----------

2005年	24位	2時間22分28秒
2006年	22位	2時間21分52秒
2007年	14位	2時間20分07秒
2008年	8位	2時間19分51秒

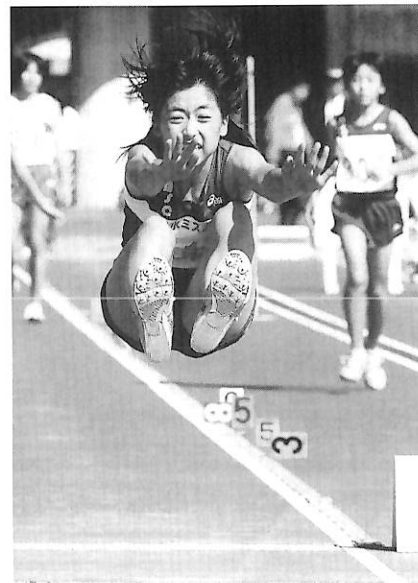
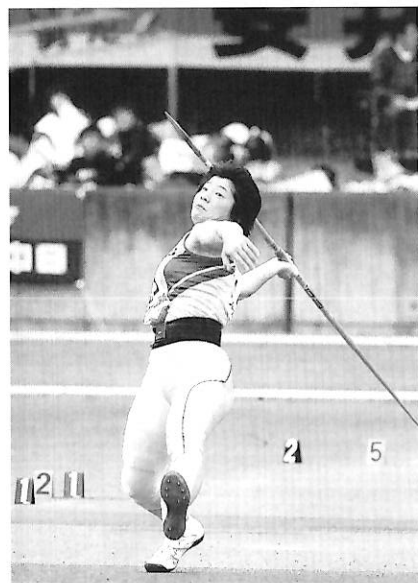
#### ◇本県選手の区間成績◇

▽一区（6キロ）	平田裕美（資生堂）	19分50秒	19
▽二区（4キロ）	谷 奈美（アルゼ）	12分43秒	6
▽三区（3キロ）	木村友香（静岡籠上中）	9分40秒	5
▽四区（4キロ）	堀 佳奈子（ユタカ技研）	13分47秒	35
▽五区（4・1075キロ）	萩原歩美（常葉菊川高）	13分48秒	18
▽六区（4・0875キロ）	栗田泰葉（島田高）	13分20秒	9
▽七区（4キロ）	後藤百絵（三島北高）	13分20秒	16
▽八区（3キロ）	田中結女（御殿場富士岡中）	9分57秒	3
▽九区（10キロ）	山田幸代（ユタカ技研）	34分22秒	34











平成21~22年度 静岡陸上競技協会役員

★印は常任理事

Table listing the board members of the Shizuoka Athletics Association for the 2009-2010 and 2010-2011 fiscal years. The table is organized into columns for various roles such as President, Vice President, Executive Director, and various committees. Names are listed in Japanese characters.

陸上、今、日本代表は

現在、日本代表選手は今年八月の世界選手権大会(ベルリン)・二〇一二年ロンドン五輪大会に向けて(短距離・跳躍ブロック) 始動した。一月十五日、東京ナショナル・トレーニングセンターで合宿を開始、日本陸連、高野進強化委員長は「挑戦の年」と位置づけた。

編集後記

年間二回発行になりました会報も五年目です。報道・陸協関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。一昨年は大阪世界陸上、昨年は北京五輪と続けて大きな国際大会が開催され、本県からも国を代表する選手が何人か出場しました。

二〇〇九年新しい年を迎え、年々レベルアップする記録のなか、現在の小・中・高校生を見ても充分将来戦力となる選手もたくさんいます。大きなイベントがある無しにかかわらず常に若い選手が切磋琢磨し成長する姿を応援したい。

編集委員(広報・事務局)

- ◎橋本美智夫
・内田 光夫
・亀山 健士
・矢邊 進
・松井 清和

(印刷・株エスケイピー)

